

に上記諸項を考慮する外、鉄骨と鋼材との接合に溶接を利用し鉄筋の碇着長を節約すること  
鋼材の接合に溶接を利用することは材料節約上極めて有利である故地方長官の認可を得て成るべく多方面に利用することを望むのであるが、工夫の性質上充分注意して取扱はねばならぬ故、先づ溶接の利

用範囲を比較的不安なく使用し得られ、且材料節約上有效であると考へられる上記の程度として廣く一般に其利用を促進せんとするものである、然し乍ら此の程度を以て満足するのではなく、工法の發達及び研究の進歩に伴つて一層多方面に溶接を利用し鋼材の節約を圖るべきである。

## 滿支國情を聽く會

七月八日大阪市の中央電氣俱樂部で土木學會關西支部の主催に依り『滿支國情を聽く會』が開催された。講演者は坂本助太郎博士、島崎孝彦博士、三輪周藏氏、近藤博夫氏、村山喜一郎氏、近藤泰夫氏、田村義正氏、橋本敬之氏等で、これ等の諸氏が中南支方面を視察せられた報告を聽いたのであるが、同方面に於ける復興状況、新建設計畫、水道施設、港灣改修、都市計畫、クリーク治水、交通機關等の現地調査報告があつて盛會を極め

た。橋本氏は學會支部代表として主として交通機關を視察して歸られたが、其報告は好評を博した。出席者約50名餘。寫真は當日の會場で正面に向つて右より橋本敬之氏、田村義正氏（阪神築港株式會社技師長）近藤博夫氏（大林組常務取締役）坂本助太郎博士、島崎孝彦氏（大阪市水道部長）三池貞一郎氏（株式會社鴻池組監査役）大井清一氏（京大名譽教授）近藤泰夫氏（京大教授）高西敬義博士、福留並喜氏（大阪市土木部長）である。

